

表 3. Symptom-related Use of Oral CAM Therapy in the Multivariable adjusted Model (n=878)

Variable	Participant n (%)	Participant who used oral CAM therapy		
		% (95% CI)	Odds ratio (95% CI)*	p-value*
All participants	878	22.1 (19.3-24.8)		
Demographics				
Gender				
Male	377 (42.9)	18.0 (14.1-21.9)	reference	
Female	501 (57.1)	25.1 (21.3-29.0)	1.800 (1.253-2.584)	0.001
Age				
< 60	754 (85.9)	20.8 (17.9-23.7)	reference	
>= 60	124 (14.1)	29.8 (21.7-38.0)	1.977 (1.194-3.276)	0.008
Area of residence				
Rural area	174 (19.8)	22.4 (16.2-28.7)	reference	0.612
Population < 100,000	303 (34.5)	20.8 (16.2-25.4)	0.941 (0.593-1.493)	0.797
Population of 100,000 to 1,000,000	216 (24.6)	20.4 (15.0-25.8)	0.890 (0.540-1.466)	0.646
Population > 1,000,000	185 (21.1)	25.9 (19.6-32.3)	1.206 (0.730-1.994)	0.464
Socioeconomic characteristics				
Annual household income				
<5,000,000 Japanese yen (low)	370 (42.1)	21.9 (17.7-26.1)	reference	0.257
5,000,000 to < 10,000,000 (middle)	411 (46.8)	20.7 (16.7-24.6)	0.973 (0.681-1.389)	0.880
>=10,000,000 (high)	97 (11.0)	28.9 (19.7-38.0)	1.478 (0.879-2.487)	0.141
Employment				
Employed	601 (68.5)	22.8 (19.4-26.2)	reference	
Unemployed	277 (31.5)	20.6 (15.8-25.4)	0.636 (0.432-0.937)	0.022
Education				
High school graduate or lower	374 (42.6)	21.1 (17.0-25.3)	reference	
College degree or higher	504 (57.4)	22.8 (19.1-26.5)	1.236 (0.873-1.750)	0.232
Clinical characteristics				
Having a primary care physician				
No	566 (64.5)	20.8 (17.5-24.2)	reference	
Yes	312 (35.5)	24.4 (19.6-29.1)	1.070 (0.726-1.578)	0.731
No. of comorbidities				
None	637 (72.6)	21.8 (18.6-25.0)	reference	
One or more	241 (27.4)	22.8 (17.5-28.2)	0.776 (0.504-1.193)	0.248
PCS8				
>= 50	468 (53.3)	19.0 (15.4-22.6)	reference	
< 50	410 (46.7)	25.6 (21.4-29.9)	1.504 (1.077-2.100)	0.017
MCS8				
>= 50	362 (41.2)	22.7 (18.3-27.0)	reference	
< 50	516 (58.8)	21.7 (18.1-25.3)	0.959 (0.684-1.345)	0.808

*Odds ratios and p-values are calculated using logistic regression adjusted for all variables shown above.

CI=confidence interval; PCS8=physical component summary of SF8; MCS8=mental component summary of SF8.

平成 18 年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）
総括・分担研究報告書

「わが国の医師における代替医療についての知識、関心度、主観的見解についての研究」

分担研究者：高橋 理 （聖路加国際病院 一般内科 医幹）
徳田安春 （聖路加国際病院 一般内科 副医長）
白川太郎 （株式会社GOODGENE JAPAN 取締役 遺伝子解析センター長）
研究協力者：大出幸子 （財団法人聖ルカ・ライフサイエンス研究所 研究員）

研究要旨

目的： わが国医師に対して代替医療に対するインターネットによる意識調査を行い、臨床現場の医師における、さまざまな種類の代替医療への関心度や知識、そして代替医療への主観的な見解を調査する。

方法： 2007年2月に2週間、全国の調査パネル登録医師を対象にインターネット調査を行った。

結果： 回答者は895名で、男性が797名（89.1%）、女性が98名（10.9%）、年齢の平均は41.9歳（SD=8.7）であった。医師の認知度は、漢方（N=784、87.6%）、ヨガ（N=551、61.6%）、アロマセラピー（N=545、60.9%）であった。医師の関心度が高い代替医療は、漢方（N=607、67.8%）、アロマセラピー（N=299、33.4%）、ヨガ（N=279、31.2%）であった。医師による患者への利用度は、漢方で（N=664、74.2%）、灸灸（N=66、7.4%）コエンザイムQ10（N=51、5.7%）であった。患者が最も多く相談する代替医療は、漢方（N=952、95.2%）、アガリスクや霊芝などのきのこ食品（N=599、66.9%）、鍼灸（N=466、52.1%）であった。

結論： 漢方は、医師の認知度・関心度・利用度ともに最も高く、その他の代替医療の利用度は一様に低かった。また、患者が相談する代替医療について、医師の認知度・関心度は比較的lowかった。

A. 目的

わが国における代替医療 Complementary and alternative medicine (CAM)の利用者数は年々増大しており、利用者が負担する総費用も莫大な額に達していることが推測される。日本補完代替医療学会では代替医療を「現代西洋医学領域において、科学的未検証および臨床未応用の医学・医療体系の総称」と定義しているが、具体的には、漢方薬、ハーブ、サプリなどの経口用の代替医療や、鍼灸、指圧、柔道整復、マッサージ、オステオパシー、ホメオパシー、アロマセラピーやカイロプラクティック等の身体用の代替医療、さらには宗教系ヒーリングまで、多くの種類の治療法が含まれる。

これらの代替医療の中には鍼灸や漢方のように長い歴史を持つものもあるが、数多

くの種類の民間療法が出現消退を繰り返している。そして通常の医療（西洋医学）において治癒の見込めない患者や、マスメディアによって通常の医療に対する不信感をかきたてられた人に代替医療を多用している例が多い。

このような背景のなかで、これらの代替医療における治療効果のエビデンスの評価の必要性が近年強調されるようになった。なかでも WHO が代表的な代替医療における適応疾患を提言し、米国 NIH 内にも巨大な国立補完代替医療センター（NCCAM）が設置されるようになった。日本でも健康ブ

ームの高まりの中、急速に代替医療の商品やサービスが、広がりを見せているが、有効性の検証は必ずしも並行していないのが現状である。そのため、わが国の医療現場の医師における代替医療に対する意識の度合いはさまざまであると推測されるが、代替医療への関心度や知識、そして主観的な考えなどについてこれまで十分な調査がなされていない。

わが国医師に対して代替医療に対するインターネットによる意識調査を行い、臨床現場の医師における、さまざまな種類の代替医療への関心度や知識、そして代替医療への主観的な見解を調査する。

B. 方法

対象者

プラメド社のインターネット調査パネルユーザーに協力を得て、全国の登録医師 895 名を対象とした。調査は 2007 年 2 月に 2 週間行った。財団法人 聖路加国際病院の研究審査委員会より承認を得た上で調査を行った。

データ収集

対象者にインターネット上にあるアンケートにアクセスしてもらい、回答を得た。質問内容は、代替医療に対する医師の意識調査で、代表的な代替医療、20 項目について、それぞれ知識、利用状況、関心、情報収集の経験、診療時の患者への確認、患者から相談を受けた経験の有無、今までに経験した有害事象の有無とその内容を聞いた。

統計的分析

SPSS の version 15.0J を利用した。

C. 結果

インターネットにアクセスし、質問に回答した人は 895 名で、うち男性が 797 名 (89.1%)、女性が 98 名 (10.9%)、年齢の平均は 41.89 歳 (SD=8.66) であった。回答者のうち、病院に勤務する医師が 712 名 (79.6%)、診療所に勤務する医師が 168 名 (18.8%)、その他の医療機関に勤務する医師が 15 名 (1.7%) であった。専門領域は、内科系が 569 名 (63.6%)、外科系が 151 名 (16.9%)、その他が 175 名 (19.6%) であった。医師免許取得から現在までの年

数が 10 年未満の者が、221 名 (24.7%)。10 年～20 年の者が、377 名 (42.1%)。20 年以上の者が 297 名 (33.2%) であった。表 1 にこれらの基礎情報を表す。

代表的な代替医療 20 項目のうち、言葉も内容も知っているとしたのは、漢方 (N=784、87.6%) が最も多く続いて、ヨガ (N=551、61.6%)、アロマセラピー (N=545、60.9%) であった。

最も多く患者に利用したことがあると回答を得た代替医療は、漢方 (N=664、74.2%) であったが、続く灸灸 (N=66、7.4%) コエンザイム Q10 (N=51、5.7%) と漢方に比べて、利用状況は非常に少ないことがわかった。

患者からの相談が多いと最も多く回答を得た代替医療は、漢方で (N=952、95.2%) であった。続いて、アガリスクや霊芝などのきのこ食品 (N=599、66.9%)、鍼灸 (N=466、52.1%) であった。アガリスクや霊芝などのきのこ食品は、患者から相談を受けた経験があると回答した医師が多かったが、関心がある回答した医師は、全体で 97 名、10.8% と非常に低かった。関心があると最も回答数が多かった代替医療は、漢方 (N=607、67.8%) で、続いてアロマセラピー (N=299、33.4%)、ヨガ (N=279、31.2%) であった。

診療時、患者に利用状況を確認していると最も多く回答を得た代替医療は、漢方 (N=568、63.5%) で、続いて、アガリスクや霊芝などのきのこ食品 (N=153、17.1%)、コエンザイム Q10 (N=121、13.5%) であったが、患者から相談を受けた経験に比べると、患者への確認状況は非常に少ないことがわかった。

有害事象の経験があると最も多く回答を得た代替医療は、漢方 (N=533、59.6%) であった。続いて、灸灸 (N=121、13.5%)、整体 (N=104、11.6%) であった。漢方の次に患者からの相談が多かったアガリスクや霊芝などのきのこ食品における有害事象の経験者は、92 名、10.3% であった。

漢方における有害事象の内容は、肝障害が最も多く 247 名、27.7%、続いて、電解質異常 (N=202、22.6%)、蕁麻疹・薬疹 (N=128、14.3%) であった。表 2～5 にアンケート結果を表す。

D. 考察

本研究によって、医師の代替医療に関する認知度・関心度・利用度は漢方についてもっとも高いこと、他の代替医療に関する医師の認知度・関心度は各代替医療で様々であるが、利用度は一様に低いことがわかった。また、患者から相談された経験の多い代替医療に関する医師の認知度・関心度は比較的低いことが示された。

先行研究において、漢方は日本人医師によりもっとも処方され、有効性が高く信じられている代替医療であると報告されている。また、漢方は他の代替医療の有効性における医師の信頼度に影響を及ぼすと報告されている。しかし、有効性を評価したレビューによると、エビデンスレベルの高い研究で漢方の有効性が評価されているとは必ずしも言えない。また、本研究により、ほとんどの医師が漢方について患者より相談を受け、情報収集を行った経験をもっており、医師からの漢方に関する情報への高いニーズが示唆され、今後、質の高い臨床研究により漢方の有効性を評価する必要性が再確認された。

患者から相談を受けたことのある代替医療と医師の認知度・関心度との違いがはじめて明らかとなった。患者から相談を受けた代替医療は、トップの漢方に続き、きのこ食品（アガリクスなど）、鍼灸、ロイヤルゼリー、プロポリスの順であり、今までの患者の代替医療の利用状況と比較的同じであったが、それらに関する医師の認知度・関心度は患者に相談を受けた頻度に比べ低かった。また、医師の認知度・関心度の高い代替医療は、ヨガ、アロマセラピー、鍼灸であり、患者と医師の間で認知度・関心度の高い代替医療の違いが明らかとなった。

これらの原因の一つとして、患者・医師間での代替医療の利用に関してのコミュニケーション不足が考えられる。先行研究にて、日本において約8割の患者が代替医療を利用した経験を持つが、その中で46%

しか医師に相談していないと報告されている。さらに、本研究より、診療時に代替医療の利用について患者に確認する医師は漢方以外では少数であり、確認しないまたは患者からの申し出がない限り確認しないことがほとんどであることが明らかとなり、十分なコミュニケーションがとられていない実態が再認識された。

多くの患者が代替医療を利用し医師に相談していること、それに関する医師の認知度・関心度が低く、代替医療による有害事象を少なからず経験している事などを考慮すると、医師への代替医療の幅広い情報提供・教育システムの構築と共に、医師と患者との代替医療についてのコミュニケーションが重要となるであろう。

E. 結論

医師の代替医療に関する認知度・関心度・利用度は漢方についてもっとも高く、他の代替医療の利用度は一様に低かった。また、患者から相談された経験の多い代替医療に関する医師の認知度・関心度は比較的低いことが示された。

F. 参考文献

- 1) Yamashita H et al. Popularity of complementary and alternative medicine in Japan: a telephone survey. *Complementary Therapies in Medicine*. 2002; 10: 84-93
- 2) Hyodo I et al. Nationwide survey on complementary and alternative medicine in cancer patients in Japan. *J Clin. Oncol.* 2005;23(12):2645-54
- 3) Watanabe S et al. Unique Place of Kamo in Complementary and Alternative Medicine. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 2001; 194: 55-63

患者の利用する健康関連商品・サービスに関する医師調査

アンケートページにアクセスしていただき、ありがとうございます。

このアンケートは、臨床医の方を対象に、患者の利用する健康関連商品・サービスについてお伺いする調査です。質問項目へのご回答内容はすべて統計情報としてのみ使用し、他の目的で利用することはございません。またご本人の同意がない限り、個人を特定できるような情報を開示することはありません。この調査にご協力いただける方のみアンケートにお進みください。

アンケートにご協力いただける場合は、「開始」ボタンを押してください。

[開始]

基本情報

Q1. 年齢をお答えください。(必須)

()歳

Q2. 性別をお答えください。(必須)

1. 男
2. 女

Q3. あなたの医師免許取得後年数をお答えください。(必須)

2年未満、2年以上－5年未満、5以上－10年未満、10以上－15年未満、15以上－20年未満、20年

Q4. ご専門をお答えください。(回答はひとつ)(必須)

一般・総合系(一般内科、家庭医療、総合診療、地域医療など)/消化器内科/循環器内科/呼吸器内科/感染症科/内分泌内科/代謝内科/糖尿病科/血液内科/腫瘍内科/腎臓内科/神経内科/膠原病・アレルギー内科/心療内科/老年科/リハビリテーション科/小児科/一般外科/消化器外科/呼吸器外科/心臓血管外科/乳腺外科/内分泌外科/人工臓器・移植外科/小児外科/整形外科/泌尿器科/口腔外科/脳神経外科/産婦人科/形成外科/美容外科/麻酔科/集中治療科/救急救命科/ペインクリニック/緩和医療科/眼科/皮膚科/耳鼻咽喉科/放射線科/精神神経科/東洋医学科/その他(具体的に)

Q5. あなたの勤務形態（主な勤務先の勤務形態）をお聞かせください（回答は1つ）（必須）

1. 病院経営
2. 大学病院勤務
3. 病院勤務(国公立病院)
4. 病院勤務(公的病院)
5. 病院勤務(私立病院)
6. 診療所経営
7. 診療所勤務
8. その他(具体的に)

Q6. 下記の健康関連商品・サービスについて知っていますか。(必須)

		言葉も内容も知っている	言葉は聞いた・見たことはあるが、内容はよくわからない	言葉も内容も知らない
(○は横に1つずつ)				
A)	漢方薬	1	2	3
B)	ハチ蜜、プロポリス	1	2	3
C)	ロイヤルゼリー	1	2	3
D)	ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3
E)	藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3
F)	ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3
G)	健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3
H)	クエン酸(梅丹など)	1	2	3
I)	コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3
J)	きのこ食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3

K) 魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3
L) 鍼灸	1	2	3
M) カイロプラクティック	1	2	3
N) アロマセラピー	1	2	3
O) ホメオパシー	1	2	3
P) 温泉療法	1	2	3
Q) ヨガ	1	2	3
R) 音楽療法	1	2	3
S) 整体	1	2	3

Q7. 下記の健康関連商品・サービスにどの程度関心がありますか？(回答はひとつ)(必須)
(Q6で「言葉も内容も知っている」を回答した項目のみ)

	とても 関心がある	やや 関心がある	どちらとも いえない	あまり 関心がない	ほとんど 関心がない
(○は横に1つずつ)					
A) 漢方薬	1	2	3	4	5
B) ハチ蜜、プロポリス	1	2	3	4	5
C) ロイヤルゼリー					
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、 ヨーグルトなど)	1	2	3	4	5
E) 藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダ ンなど)	1	2	3	4	5
F) ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、に んにく卵黄など)	1	2	3	4	5
G) 健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5
H) クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5

I)	コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5
J)	きのこ食品類(アガリクス、靈芝など)	1	2	3	4	5
K)	魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5
L)	鍼灸	1	2	3	4	5
M)	カイロプラクティック	1	2	3	4	5
N)	アロマセラピー	1	2	3	4	5
O)	ホメオパシー	1	2	3	4	5
P)	温泉療法	1	2	3	4	5
Q)	ヨガ	1	2	3	4	5
R)	音楽療法	1	2	3	4	5
S)	整体	1	2	3	4	5

Q8. 患者の代替医療の利用状況について、診察時に確認していますか。(回答はひとつ)(必須)
(Q6で「言葉も内容も知っている」を回答した項目のみ)

		(○は横に1つずつ)			
		必ず確認している	場合によっては確認している	患者からの申し出がない限り確認はしない	その他(具体的に)
A)	漢方薬	1	2	3	4
B)	ハチ蜜、プロポリス	1	2	3	4
C)	ロイヤルゼリー	1	2	3	4
D)	ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3	4
E)	藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4

F)	ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4
G)	健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4
H)	クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4
I)	コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4
J)	きのこ食品類(アガリクス、靈芝など)	1	2	3	4
K)	魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4
L)	鍼灸	1	2	3	4
M)	カイロプラクティック	1	2	3	4
N)	アロマセラピー	1	2	3	4
O)	ホメオパシー	1	2	3	4
P)	温泉療法	1	2	3	4
Q)	ヨガ	1	2	3	4
R)	音楽療法	1	2	3	4
S)	整体				

1. 必ず確認している
2. 場合によっては確認している
3. 患者からの申し出がない限り確認はしない
4. その他(具体的に)

Q9. 下記の健康関連商品・サービスについて、診療での利用状況をお答えください。(回答はひとつ)(必須)

(Q6 で「言葉も内容も知っている」を回答した項目のみ)

(○は横に1つずつ)

	よく利用している	時に利用している	以前利用していたが、今は利用していない	利用したことはないが、今後利用するかもしれない。	利用したことはないし、今後もしも利用するつもりはない
A) 漢方薬(など)	1	2	3	4	5
C) ロイヤルゼリー	1	2	3	4	5
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3	4	5
E) 藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4	5
F) ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4	5
G) 健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5
H) クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5
I) コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5
J) きのこと食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3	4	5
K) 魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5
L) 鍼灸	1	2	3	4	5
M) カイロプラクティック	1	2	3	4	5
N) アロマセラピー	1	2	3	4	5
O) ホメオパシー	1	2	3	4	5
P) 温泉療法	1	2	3	4	5
Q) ヨガ	1	2	3	4	5
R) 音楽療法	1	2	3	4	5
S) 整体	1	2	3	4	5

Q10. 下記の健康関連商品・サービスについて、患者から相談を受ける頻度をお答えください。

(回答はひとつ)(必須)

		週に数回以上	週に1回程度	数週に1回程度	1か月に1回程度	2・3か月に1回程度	6か月に1回程度	1年に1回程度	ごくまれに受ける程度	受けたことがない
(○は横に1つずつ)										
A)	漢方薬(など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C)	ロイヤルゼリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D)	ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E)	藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F)	ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G)	健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H)	クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I)	コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J)	きのこ食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K)	魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L)	鍼灸	1	2	3	4	5	6	7	8	9
M)	カイロプラクティック	1	2	3	4	5	6	7	8	9
N)	アロマセラピー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
O)	ホメオパシー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
P)	温泉療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q) ヨガ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
R) 音楽療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9
S) 整体	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q11. 下記の健康関連商品・サービスについて、情報収集をする頻度をお答えください（回答はひとつ）（必須）（Q6で「言葉も内容も知っている」と回答した項目のみ）

	週に数回以上	週に1回程度	数週に1回程度	1か月に1回程度	2・3か月に1回程度	6か月に1回程度	1年に1回程度	ごくまれに情報収集する	情報収集したことがない
（○は横に1つずつ）									
A) 漢方薬(など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C) ロイヤルゼリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E) 藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F) ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G) 健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H) クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I) コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J) きのこと食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K) 魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L) 鍼灸	1	2	3	4	5	6	7	8	9
M) カイロプラクティック	1	2	3	4	5	6	7	8	9
N) アロマセラピー	1	2	3	4	5	6	7	8	9

O) ホメオパシー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
P) 温泉療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Q) ヨガ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
R) 音楽療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9
S) 整体	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q12. 下記の健康関連商品・サービスについて、情報の入手経路についてお答えください(回答はひとつ)(必須)

(Q6で「言葉も内容も知っている」と回答した項目のみ)

	医学雑誌(電子ジャーナル含む)	インターネット	患者から	取り扱い事業者など	医師	薬剤師	医師・薬剤師以外の医療従事者	所属学会・医師会など	行政機関(保健所など)	わからない・覚えていない	その他()
(○は横に1つずつ)											
A) 漢方薬(など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C) ロイヤルゼリー	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
E) 藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
F) ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
G) 健康機能水(イオン飲料など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
H) クエン酸(梅丹など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12

I) コエンザイムQ10(COQ10など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
J) きのこと食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
K) 魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
L) 鍼灸	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
M) カイロプラクティック	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
N) アロマセラピー	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
O) ホメオパシー	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
P) 温泉療法	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Q) ヨガ	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
R) 音楽療法	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
S) 整体	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12

Q13. 下記の健康関連商品・サービスについて、入手された情報の活用を語ってください。(回答はいくつでも)(必須)

(Q11で1-10を回答した項目のみ)

	利用の是非の判断	患者への説明	学会での利用	決定 治療法(医療行為や医療用医薬品)の選択	治療法との相互作用の可能性検討	その他()
(○は横に1つずつ)						
A) 漢方薬(など)	1	2	3	4	5	6
C) ロイヤルゼリー	1	2	3	4	5	6
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖)	1	2	3	4	5	6

	加工食、ヨーグルトなど)						
E)	藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4	5	6
F)	ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4	5	6
G)	健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5	6
H)	クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5	6
I)	コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5	6
J)	きのこ食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3	4	5	6
K)	魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5	6
L)	鍼灸	1	2	3	4	5	6
M)	カイロプラクティック	1	2	3	4	5	6
N)	アロマセラピー	1	2	3	4	5	6
O)	ホメオパシー	1	2	3	4	5	6
P)	温泉療法	1	2	3	4	5	6
Q)	ヨガ	1	2	3	4	5	6
R)	音楽療法	1	2	3	4	5	6
S)	整体	1	2	3	4	5	6

Q14. 下記の健康関連商品・サービスにより生じた健康被害・有害事象で、ご自身の担当した経験のあるものがありましたらお答えください。(回答はひとつ)(必須)

(Q6で「言葉も内容も知っている」を回答した方のみ)

	発熱	蕁麻疹・薬疹	肝障害・ウイルス性肝炎	HIV感染症	間質性肺炎	嘔吐・下痢	気胸	などなど	なし
(○は横に1つずつ)									
A) 漢方薬(など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
C) ロイヤルゼリー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
D) ビフィズス菌、乳酸菌(乳糖加工食、ヨーグルトなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
E) 藻類(スピルリナ、クロレラ、フコイダンなど)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
F) ハーブ、植物(イチヨウ葉エキス、にんにく卵黄など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
G) 健康機能水(イオン飲料など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
H) クエン酸(梅丹など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
I) コエンザイムQ10(COQ1など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
J) きのこと食品類(アガリクス、霊芝など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
K) 魚介エキス(肝油、鮫の油など)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
L) 鍼灸	1	2	3	4	5	6	7	8	9
M) カイロプラクティック	1	2	3	4	5	6	7	8	9
N) アロマセラピー	1	2	3	4	5	6	7	8	9

O) ホメオパシー	1	2	3	4	5	6	7	8	9
P) 温泉療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Q) ヨガ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
R) 音楽療法	1	2	3	4	5	6	7	8	9
S) 整体	1	2	3	4	5	6	7	8	9

Q15. 上記でリストした健康関連商品・サービスなどは、代替医療もしくは補完代替医療と呼ばれています。ご存知でしたか。(回答はひとつ)(必須)

1. 言葉も内容も知っていた
2. 言葉は知っていたが、内容は知らなかった
3. 知らなかった

Q16. 下記のうち、法律上明確な定義のあるものはどれですか？

1. いわゆる健康食品
2. サプリメント
3. 特定保健食品(特保)
4. ハーブ

Q17.下記のうち、国家資格が必要とされないものはどれですか？

1. カイロプラクティック
2. 台湾式マッサージ
3. 整体
4. 柔道整復

Q18 あなたのところに高血圧で通院していた患者さんが腰痛を訴え、整形外科に紹介したところ以下のように言ってきました。「先生、腰の痛みは肺がんの骨転移だったんです。この肺がんは特殊で放射線も抗がん剤も効かないといわれたんです。何か他に方法はないでしょうか？たとえば健康食品とか漢方薬とかはどうでしょう？」あなたの対応で最も近いものをお選びください。

	手段がないのだから積極的に勧める	自分で情報収集した上で勧める	患者の希望にあわせて試す	基本的に勧めない
健康食品				
漢方薬				
鍼灸・マッサージ				

気功				
整体				
丸山ワクチン・蓮見 ワクチン				
細胞免疫療法				
祈祷				
その他(自由記載)				

Q19. あなたの配偶者(独身の方なら恋人)が、胃の硬性がん(スキルス)にかかってしまいました。化学療法を試しましたが、副作用の悪心・嘔吐が非常に激しく中止を余儀なくされてしまいました。まだ食事は何とか取れますが、担当医からは緩和ケアしかないと言われてしまいました。本人から代替療法でもよいから何か方法はないかと訴えられています。あなたの対応で最も近いものをお選びください。

	手段がないのだから 積極的に勧める	自分で情報収集し た上で勧める	患者の希望にあわ せて試す	基本的に勧めない
健康食品				
漢方薬				
鍼灸・マッサージ				
気功				
整体				
丸山ワクチン・蓮見 ワクチン				
細胞免疫療法				
祈祷				
その他(自由記載)				

Q20. 代替医療の安全性、有効性を判断するために、新たに必要、あるいは、充実させる必要がある、とお考えになっていることがあれば、お選びください。(回答はいくつでも)(必須)

1. 個々の代替医療について、有効性を検索するためのデータベース
2. 個々の代替医療について、安全性を検索するためのデータベース
3. 個々の代替医療について診療ガイドラインへの記載
4. 医療関係者間で健康被害・有害事象を共有するしくみ
5. 健康被害・有害事象の原因究明体制
6. 医療関係者向けの情報交換会
7. 代替医療を実施している医療機関の安全性を知るためのデータベース

S) 健康でいられるのは、家族の思いやりのおかげである	1	2	3	4	5	6
T) 病気がよくなるかどうかは、自分の心がけしだいである	1	2	3	4	5	6
U) 私の健康は、私自身で気をつける	1	2	3	4	5	6
V) 健康でいるためには、よく拝んでご先祖様を大切にすることがよい	1	2	3	4	5	6
W) 健康でいられるのは、運がよいからだ	1	2	3	4	5	6
X) 健康を左右するようなものごとは、たいてい偶然に起こる	1	2	3	4	5	6
Y) 病気がよくなるかどうかは、自分の努力次第である	1	2	3	4	5	6

堀毛裕子, 日本版 Health Locus of Control 尺度の作成, 健康心理学研究, 1991, 4(1), 1-7